新市民会館プロポーザル技術提案書

まちを訪れる人々を施設内へ自然にいざない、常ににぎわっているような仕掛けづくりの工夫

多くの市民が楽しめる、「新しい魅力的なまち」を創る

新市民会館に求められるのは、「新しい魅力的なまち」を創ることです。ここにコミュニケーション空間としての「まち」「みち」を創ります。泉町の歴史を紐解いてみると、かつて華やかであった頃に「泉町広小路」という言葉があり、今日のような車社会になる前は、まさに「泉町広小路」はコミュニケーション空間として、大人の社交の場、こどもの遊び場、世代間交流の場、祭りなど非日常の交流の場として機能してきました。いつの間にか「みち」は「道路」になり、交通のためのものになってしまいましたが、本来のコミュニケーション空間として、人々の生活に重要な役割を果たしていた「みち」を再生します。

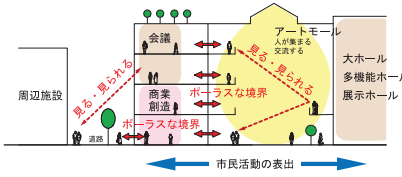
コミュニケーション空間・・・アートモールの提案

施設をつなぎ、まちをつなぐ

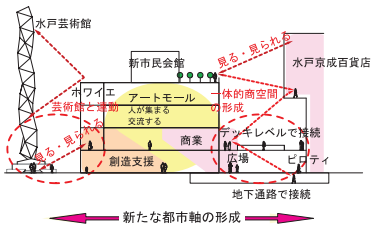
施設内を縦貫する「アートモール」を提案します。これはまさに、現代に「泉町広小路」を復活させようとするものです。敷地を南北に縦貫することによって、水戸芸術館とメインストリートである国道 50 号線との関係を強化し、また、このアートモールに商業施設・スタジオなどの創造文化施設・展示ホール・会議室・大ホールなどが接続する構成をとることにより、再び多くの人が訪れ、文化・創造活動に触れ、交流し、情報発信する施設とすることができます。アートモールは、そこに接続する諸室と共に全体がボーラスな構成とし、そこで行われる様々な市民活動が施設内からも周囲からも見られる劇場的空間です。小さなたまりや屋内広場が点在する立体的な「みち」空間であり、通りすがりに施設や周囲を訪れた人々を触発します。

空間認識を容易にする立体回廊

アートモールは施設の骨格となる主動線です。4 層吹抜けで自然光が降り注ぐアートモールは、快適でダイナミックな立体回廊です。ここは特に目的が無くてもつねに人がたむろ出来る楽しい空間です。多くの機能が展開する新市民会館において、初めて訪れた人でも、見通しのきくアートモールは、空間認識を容易にします。



国道50号を跨ぐ新たな南北都市軸の形成



南側の水戸京成百貨店と、ペデストリアンデッキ、地上、地下通路とで接続することによって、芸術館を起点とし、新市民会館を経由して南側の水戸京成百貨店へと至る新たな南北の都市軸が出現します。水戸の商業施設群は、国道 50 号線に東西に沿ったリニアな構成となっており、国道 50 号をまたぐ線南北の都市軸は、長く水戸市民から切望されていました。水戸市中心市街地のまさに中心に南北軸ができることによって、従来の東西軸と併せて、**面的な活性化**が図れるものと期待します。

商業・芸術文化それぞれで連携

新市民会館の国道 50 号線側は、1 階に広場を設け、2 階にはデッキを設けます。1 階の広場は様々な小イベントや大道芸などが繰り広げられ、2 階のデッキはペデストリアンデッキの受け口であると同時に、1 階広場の観客席にもなるものです。また、デッキの一部をオープンカフェとし、1 階の国道 50 号に面する部分を商業施設とすることによって、動線だけでなく、視覚的にも**国道 50 号線南北の一体化**を図ります。

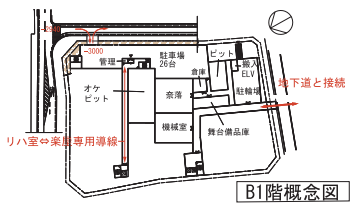
芸術館側には、2 階レベルにホールのホワイエを配置し、1 階は創造支援部門のスタジオとします。これにより、「芸術文化」をキーに**芸術館との連携利用**を可能にします。

創造の場として市民・アマチュア・プロなどあらゆる人が満足いく施設

使いやすく機能的で、芸術をあまずところなく伝える大ホール

大ホールの配置は、舞台（フライタワー）を敷地の中心とし、客席を芸術館側に設け、舞台レベルは 1 階とします。大ホールはサイドバルコニーを持つ**臨場感に優れたホール**で、客席には十分な勾配があり、前舞台まで観やすい構成とします。また、コンサート形式時にはシューボックスに近い音響を持ち、演劇時には明瞭な言葉が聞き取れます。

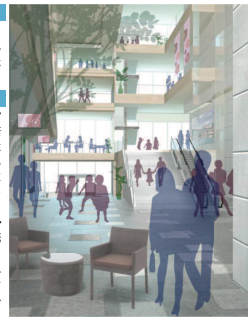
多様な市民の活動に応える多機能ホール・展示ホール・創造支援部門



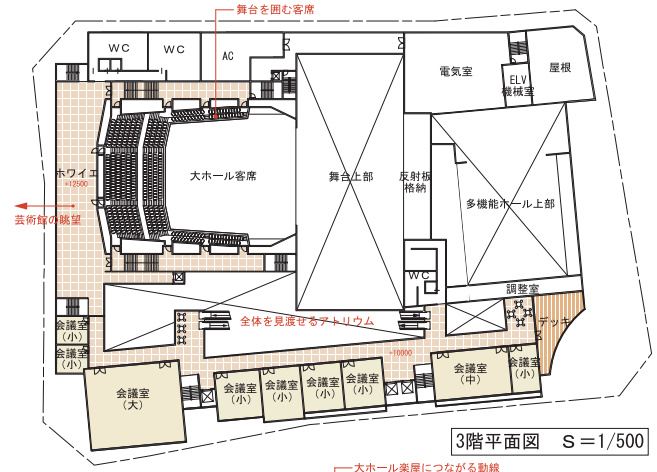
B1階概念図

創造支援部門は、創造支援部門はアートモールに面した 1・2 階及び芸術館に面するように配置します。これにより、**芸術館と連携**した創造活動が容易になります。また、和室は屋上庭園に面して設けます。リハーサル室をアートモールに面して設け、一般にも開放し、単独利用可能とします。また、スタジオ・会議室の一部は、大ホール楽屋と連携できる動線を確保します。

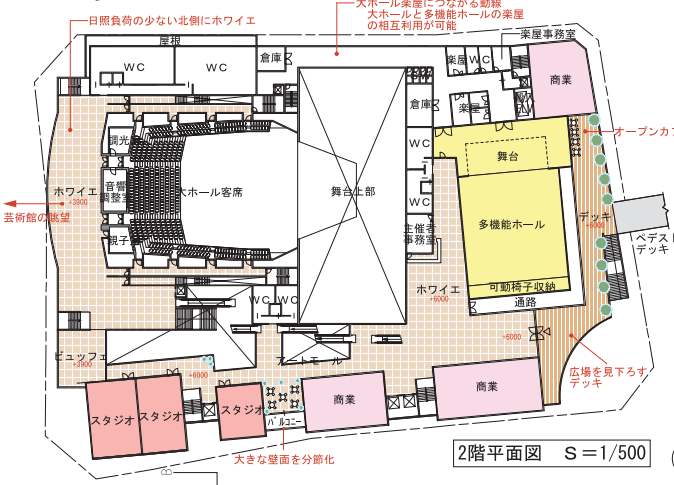
展示ホールはコンベンション等の搬入を考慮し 1 階、多機能ホールはアートモール及び大通りに面する南側 2 階とします。



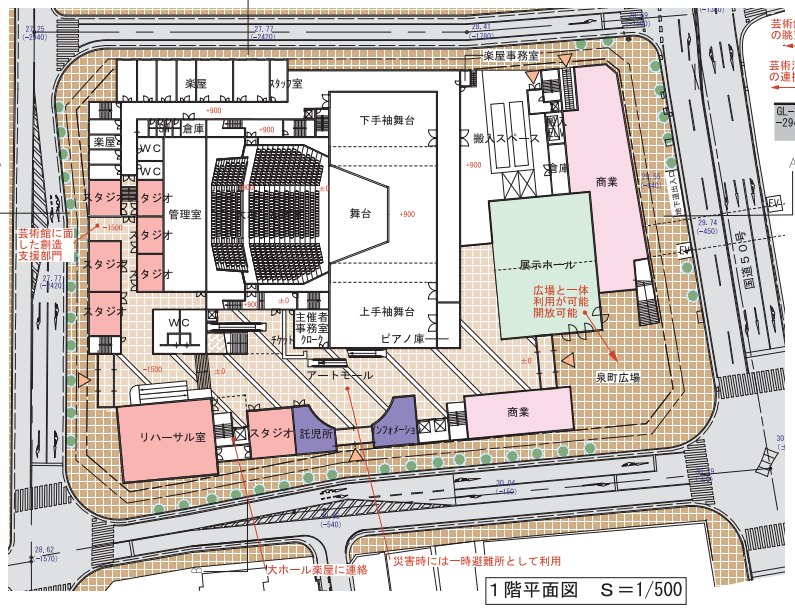
アートモールから劇場ホワイエを見る



3階平面図　S＝1/500



2階平面図　S＝1/500



1 階平面図　S＝1/500

良好な都市景観を形成

水戸中心市街地に緑の軸を

水戸市中心市街地には芸術館中庭以外にほとんど緑地がありません。したがって、新市民会館を緑化することは中心市街地の景観形成に大きな役割を果たします。新しい都市軸は中心市街地の**緑の軸**でもあります。4 階レベルは屋上庭園とし、一般に開放するとともに、創造支援部門の和室の前庭として、あるいは会議室の前庭としても利用します。また、フライタワー外壁、デッキやモール内部も積極的に緑化します。

各面に表情を持つボーラスな外観

新市民会館は、北、西、南の 3 面がそれぞれ周囲に表情を持つ空間構成となっており、裏側がなく、**全体がガラス張り**でボーラスで周囲から見える構成です。また、2 階デッキはオープンカフェなどに利用でき、1 階、2 階の広場もストリートパフォーマンスなどが催されるなど、楽しい賑わいをもたらします。

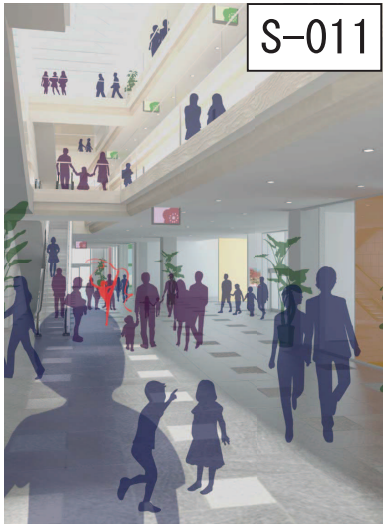
明快な動線のアートモール

はじめて訪れた人でもわかりやすい構成

大ホール・展示場・多機能ホール・会議室すべてがアートモールに面する構成のため、初めて訪れた人でもわかりやすい**明快な空間構成**となっています。1・2 階は商業施設や創造支援部門、会議室は 3・4 階とし、分かりやすい空間構成となっています。4 階の会議室は一部屋上庭園に面して設けます。

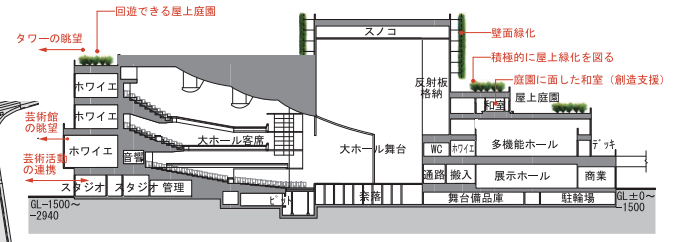
交流と情報発信の場

通り抜けや、大ホール、展示室や多機能ホールから会議室へ移動する間に、創造支援部門・商業部門を通るため、そこでは、様々な市民活動に触れることができます。水戸市民の**情報発信**の場であると同時に、市民と来訪者との新たな**交流**の場となることが期待されます。

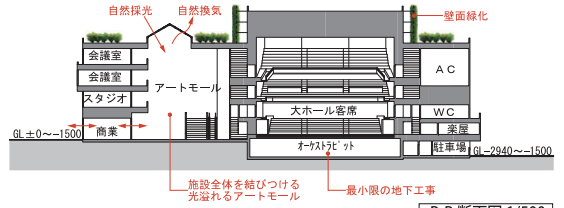


光が降り注ぎ、市民活動と想像の活気あふれるアートモール

アートモール断面イメージ



A-A 断面図 1/500



B-B 断面図 1/500

イニシャル・ランニングコストの削減

敷地周囲のレベル差を利用して、駐車場のスロープなどを廃し、**地下工事の最小化**を図っています。

モールによる自然採光・自然換気により、ランニングコスト低減を図ります。モールは居住域空調やカスケード空調により省エネを図ります。また、大ホールホワイエは、日照負荷の小さい北面としています。

日常の空間がいかされる災害支援

明快な構成は、災害時の避難誘導などに有利です。また、モールはホールや会議室を使って、一時避難場所・安否確認センター・災害物資の配布場所として機能するようにします。日頃から多くの人が訪れることにより、**災害時などもスムーズな活用**が可能になります。